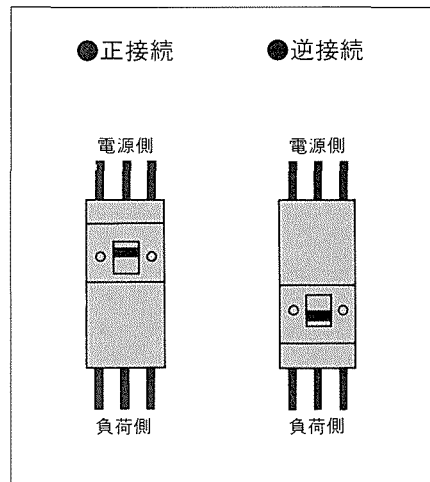


使用上のご注意

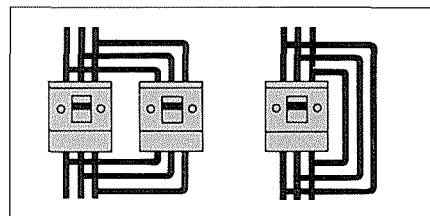
逆接続

漏電遮断器は「電源側」と「負荷側」との区別があり器種により逆接続可能なものと、そうでないものがありますので注意して下さい。逆接続不可の器種において逆接続をいたしますと、漏電遮断器が動作した場合、トリップコイルの焼損等事故につながりますのでご注意下さい。



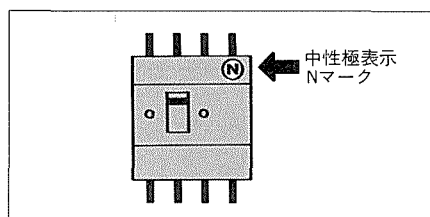
並列接続・バイパス接続

並列接続、バイパス接続は漏電遮断器が誤動作し、トリップコイルが焼損しますのでご注意下さい。



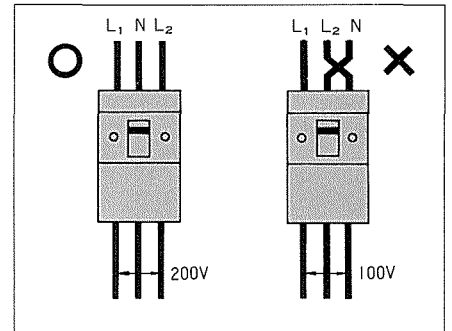
三相4線式回路への接続

三相4線式漏電遮断器(4極シリーズ)を使用し、三相4線式回路へ適用する場合、必ず中性線を中性線接続極へ接続して下さい。接続を誤りますと正常な動作を行いません。



単相3線式回路への接続

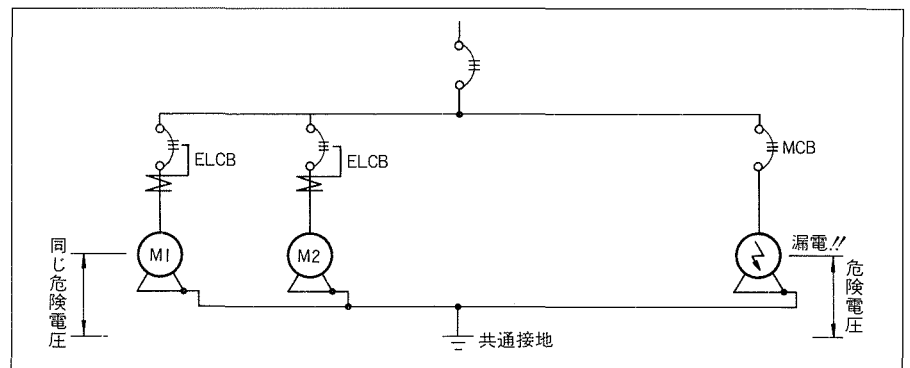
単相3線式回路へは単相3線式専用漏電遮断器はもとより三相3線式漏電遮断器でも適用できます。単相3線式回路での注意点は電圧線相互間の電圧と、中性線と電圧線間の電圧とが異なる点です。漏電検出装置の電源を遮断器内部において左右極から、とっておりますので適切な電圧(200V)がかかるよう接続しなければ、正常な動作は行いません。ご注意下さい。



共通接地

複数の電動機回路等において、漏電遮断器を取付けた電動機と、取付けない電動機のアース線を共用にいたしますと、万一漏電遮断器を取付けていない方の電動機で漏電があった場合、その対地電圧が共通接地線を通じて、漏電遮断器のある方の電動機に

も危険電圧が生じる事になります。この時は、その漏電遮断器は動作しませんので、大変危険です。この様に共通接地をとった機器については、全回路へ漏電遮断器を取付けなければなりません。



アークスペース

遮断器が大電流を遮断した時、電源側の排気孔からアークガスが噴出します。この排気孔のすぐ近くにしゃへい物や導電材がありますと、この部分でアークによる短絡や、地絡事故を起こす可能性があります。このため遮断器取付にあたっては下表に示すアークスペースが必要です。

(単位:mm)

フレームサイズ	最小寸法	
	A	B
30~75AF	30	25
100~250AF	50	40
400~1200AF	80	50

取付方向

遮断器は鉛直面取付が基本です。熱動形、熱動電磁形(過電流引外し方式)のものは、その他の取付面でも問題はありません。完全電磁形のものにおいては鉛直面取付(10°以内)以外の取付では特性が変化しますのでご注意下さい。

